

I. 検査について

1. どのような項目を測定しているのですか？

歯肉溝滲出液（Gingival crevicular fluid: GCF）中のラクトフェリン(Lf)・ α 1 アンチトリプシン(AT)・アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ（AST）を測定しています。

2. 歯肉溝滲出液とは、何でしょうか？

歯肉溝滲出液とは、歯肉から滲出する組織液のことです。歯肉溝滲出液の量は歯肉の炎症の程度と相関することが指摘されています。歯肉溝滲出液からは免疫担当細胞や歯周病原細菌が検出されることから、歯肉の炎症関連成分などのバイオマーカーが存在します。

3. ラクトフェリン(Lf)とは何でしょうか？

Lfは好中球（白血球）に含まれる成分で、炎症に伴う白血球活動の亢進で増加します。炎症の指標となります。

4. α 1 アンチトリプシン（AT）とは何でしょうか？

血液中に含まれる成分であり、歯周ポケットへの出血や血漿成分の滲出で増加します。

5. アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ（AST）とは何でしょうか？

ASTは細胞内に含まれる成分で、歯周組織細胞の破壊により増加します。

II. 検査の結果について

1. Lf、AT、ASTそれぞれの数値の読み方について、－と±、±と＋とで、どれくらいの差（リスク）があるのでしょうか？また単位は何と読みますか？

(±)(+)では(-)と比較して歯周疾患に関係する口腔異常のリスクが大きいと考えられますが、程度の差についてはデータが無いため不明です。

単位の読み方は $\mu\text{g}/\text{mL}$ (マイクログラム パーミリットル)、IU/l(アイユー パー リットル)です。

2. 検査結果の項目で、どれかひとつでも+もしくは±があれば、歯科を受診すべきでしょうか？

LfとATでは、健常な群の2SD以上を(+)としているため、何らかの異常がある可能性が高く歯科受診が推奨されますが、(±)は予防的に口腔衛生に興味を持ってもらうために設定した背景もあり、(+)との具体的な差という意味合いは薄いですが、ブラッシング指導や歯科受診等の推進が望ましいです。

* 2SD…SDとは、標準偏差。データが平均値を挟んでどの程度散らばっているのかを検証。

2SD以上平均値から離れているデータを除外して算出。

3. Lf、AT、AST、どれかひとつでも(+)もしくは(±)があると「歯周病のリスクあり」となりますか？

現在の判定基準ではその通りです。

4. Lf、AT、AST、のうち、どれがリスクの比重が一番高いのでしょうか？

いずれの要因も歯周病と関係しているため、リスクはあると言えます。しかし、各項目はそれぞれ別の因子を反映するものであり、差はありません。

5. 検査結果について、歯周病が疑われた内容でしたが、歯周病なのでしょうか？

あくまでも歯周病の疑いの有無という事であり、確定診断する検査ではありません。

6. 検査結果はいつぐらいから閲覧可能ですか？

検体を発送頂いた後、営業日で3週間前後にメールが配信されます。